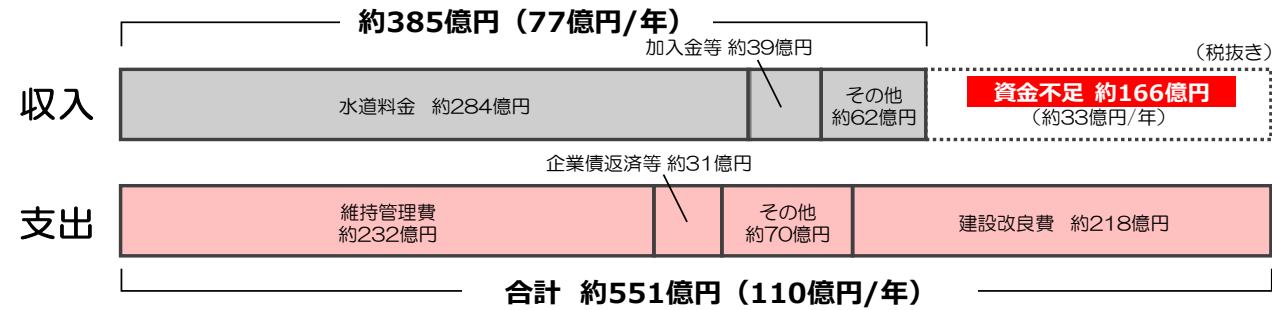


## 1. 趣旨・概要

「災害に強く健全な水道の構築を目指し、基幹施設の耐震化と老朽化が進む施設・管路の更新を加速させる」ために、**財源の確保が必要**です。

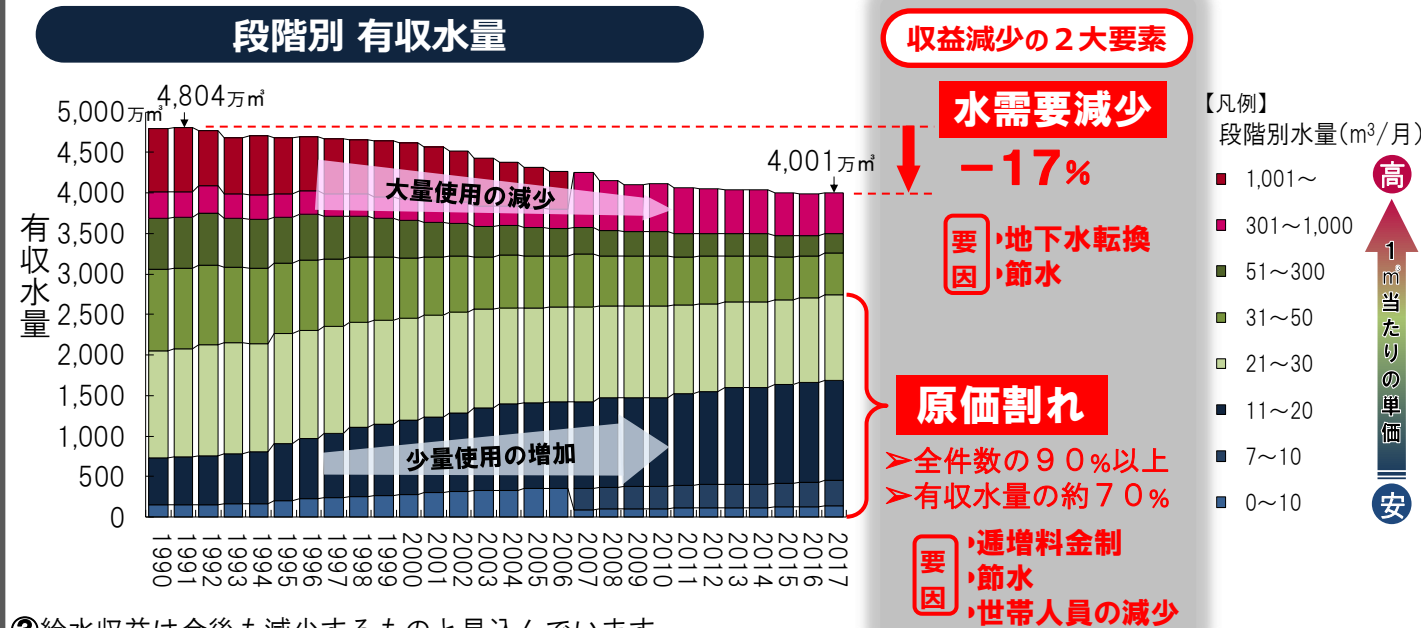
⇒経営戦略に位置付ける新たな基本計画の策定にあたり、これまでの財政状況を精査し、今後10年間を見据えた財政シミュレーションを実施した結果、5年間(2019年～2023年)で約166億円の不足額が発生することが分かりました。 ※本資料に記載の推計値等は、今後の精緻化の中で若干変動する可能性があります。

### 5年間の収支 (2019年度～2023年度)

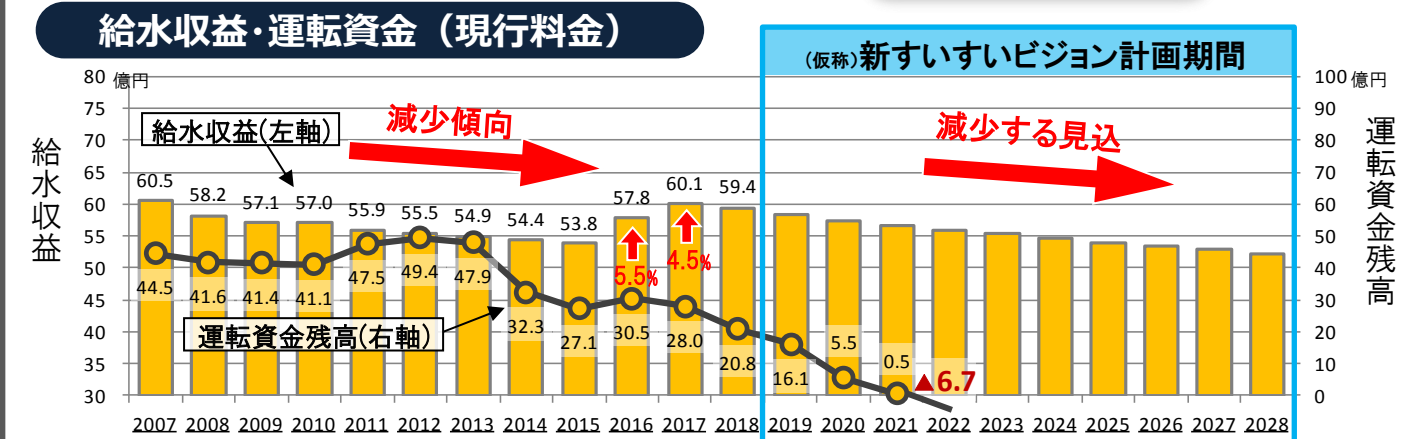


## 2. 【外部環境】有収水量・給水収益・運転資金の減少

- ①本市の人口は増加傾向ですが、有収水量は平成3年度(1991年度)をピークに減少傾向にあります。
- ②通増料金制のもとで少量使用化(節水、地下水利用への転換)が進んでおり、有収水量の減少とともに供給単価(売り値)が低下しています。

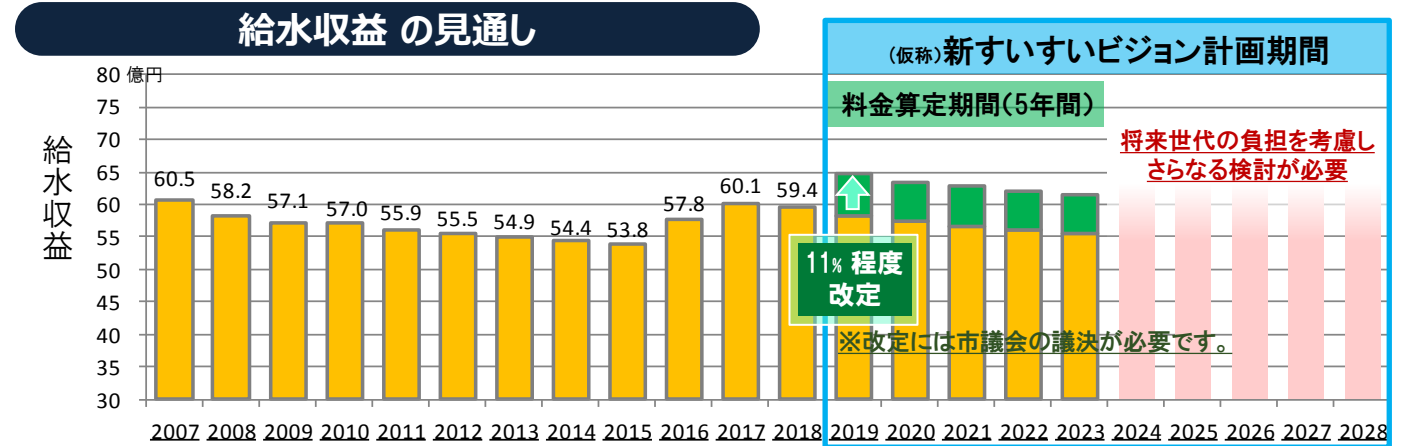


- ③給水収益は今後も減少するものと見込んでいます。



## 3. 経営戦略の策定に向けた財政シミュレーション

- ①後述の2つのルールをもとに財政シミュレーションを行った結果、次のとおり**料金改定が必要**と考えます。

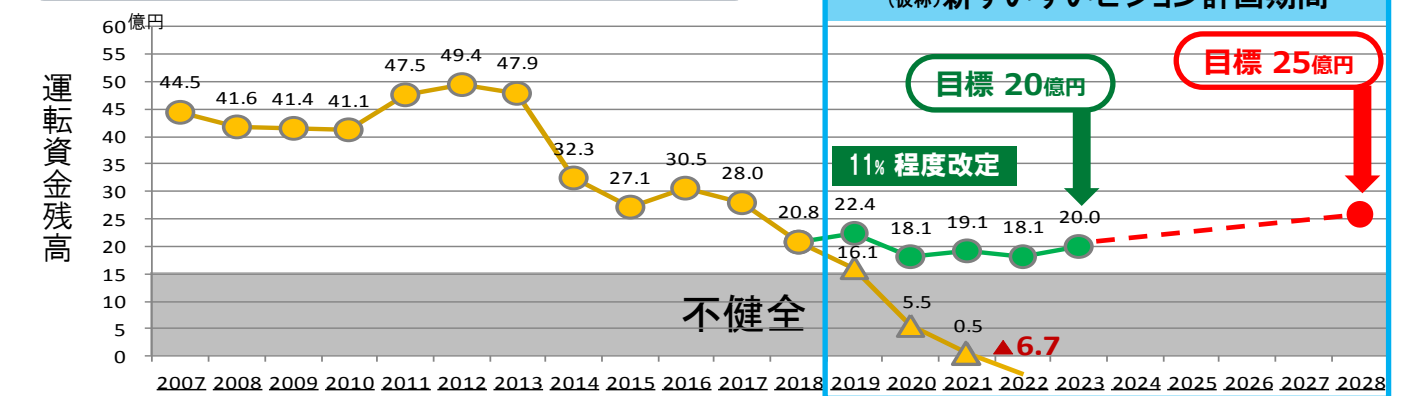


- ②今後も健全な水道事業経営を持続するため、**2つの考え方とルール(財政規律)**を設定します。
  - 1点目として、水道事業経営の持続性向上のために必要な運転資金の確保を目指します。
  - 2点目として、将来世代に過度な負担を残さないよう、借入額の適正化を図ります。
- ③【ルール1】2028年度における「**運転資金残高**」について、**目標額を25億円**と考えます。

**運転資金残高 25億円** = 目標 事業経営上の最低限必要な金額 **15億円** + 災害時に収入が途絶える期間の備え **10億円**

(1か月の最大支払額+翌年度の企業債償還金) (2か月分:阪神淡路大震災での事例×5億円/月)

### 【ルール1】運転資金の確保

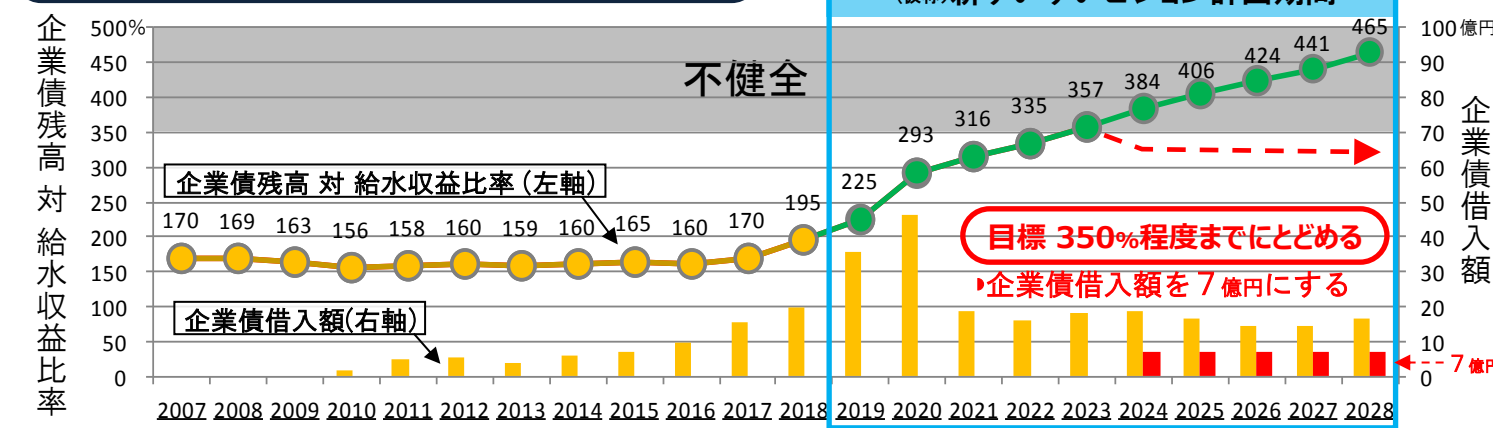


- ④【ルール2】「**企業債残高対給水収益比率**」を**350%程度まで**にとどめます。2024年度以降、企業債借入額を償還額と同程度の7億円にとどめます。なお、企業債残高対給水収益比率の類似団体の平均値は約270%です。

**企業債残高対給水収益比率 350%程度まで**

目標 企業債残高対給水収益比率に性質に近い「**将来負担比率**」の数値基準を参考にします。地方公共団体(市町村の一般会計)では、この指標が**350%**を超えると早期健全化団体に転落します。

### 【ルール2】企業債借入額の適正化



## 4. 【内部環境】 施設整備計画と概算事業費

①施設整備計画の作成にあたっては、現場の声を活かすために中堅・若手職員を含めたプロジェクトチームを編成し、平成28年度から2年間かけて計18回のPT会議のほか、WG会議、水道部研修、部内調整会議等で周知・意見集約のうえ検討を進め以下のとおりとりまとめました。

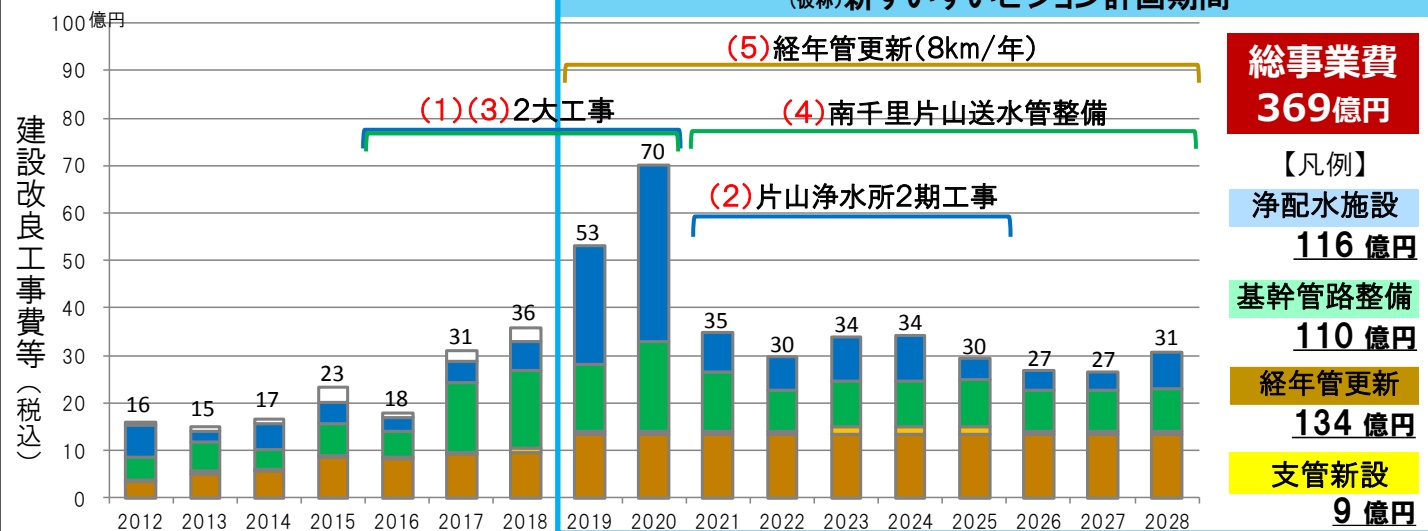
### 施設整備計画の概要

施設整備計画（第3次上水道施設等整備事業） 369 億円

工程表

	2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)	2024 (H36)	2025 (H37)	2026 (H38)	2027 (H39)	2028 (H40)
<b>浄配水施設整備事業</b> ⇒ 浄水所、配水場等の改良等 <b>116 億円</b>										
<<整備の内容・方向性>> > 泉浄水所のフェードアウトに向けた整備を推進 （安定給水を確保できる最小限の設備更新など） > 地下水の増強（片山場外の深井戸新設、処理能力の増強） > その他、環境対策、津雲場内配管耐震化、蓮間-柿ノ木統廃合など <<主な事業>> (1) 片山浄水所水処理施設更新工事(1期工事) (2) 片山浄水所場内整備工事(2期工事)										
<b>管路整備事業</b> ⇒ 水道管の更新・耐震化など										
<b>基幹管路整備事業</b> ⇒ 基幹管路の耐震化 <b>110 億円</b>										
<<整備の内容・方向性>> > 年間2km程度の耐震化を進める。 <<主な事業>> (3) 片山浄水所泉浄水所連絡管布設工事 (4) 南千里分岐片山浄水所送水管布設工事										
<b>配水支管整備事業</b> ⇒ 配水支管の更新・耐震化										
<b>経年管更新</b> ⇒ 経年管の取替 <b>134 億円</b>										
<<整備の内容・方向性>> (5) 年間8kmの更新を着実に進める。										
<b>配水支管新設</b> ⇒ 水道管未整備路線への新設 <b>9 億円</b>										

### 工事費の推移



②施設整備と財政の両面について、これまでと今後の考え方や効果・影響は以下のとおりです。維持管理の時代から大量更新の時代へ突入し、「吹田市水道施設マスタープラン(H25.3)」に基づく効率的な施設整備とともに料金水準の適正化を図ってきました。今後も将来にわたって安全な水道水を絶え間なく供給できるよう、老朽化した施設を強靱な施設へ更新するとともに、持続可能な事業経営を目指します。

### 施設整備と財政の考え方と効果・影響

